会津若松市・余市町
親善交流書

明治元年（1868年）に会津藩が戊辰戦争に敗れた後、北海道に送られた旧会津藩士団は、余市に入植して原野を切り拓き、苦難を乗り越えて地域発展の基礎を築きあげました。

会津藩は藩校「日新館」で学問と武芸に励み、心身の鍛錬に努めました。これに倣い、余市においても旧会津藩士団は「日進館」を開校し、教育に力を注ぎました。

明治12年（1879年）には、旧会津藩士団がりんご「緋の衣（ひのころも）」の栽培に成功しました。余市を代表する特産品となったりんごは、同じく余市を代表する特産品であるウイスキーを製品化するまでの過程でも、大きな役割を果たしました。

こうした歴史的な縁によって深く結ばれている会津若松市と余市町は、次のとおり親善交流を推進することに合意するものです。

記

1　両市町は、互いを結ぶゆかりを貴重な歴史的遺産として、長く後々の世代までにも引き継いでいくことを確認し、住民意識の高揚を図ります。

2　両市町は、住民間の交流を促進し、友好関係をより一層深め、地域社会の繁栄と発展を推進します。

3　両市町は、教育・文化・産業・観光など相互の交流を通して親善を深め、地域の発展を目指します。

平成27年10月14日

会津若松市長　室井照平

余市町長　嶋保